

札幌医科大学附属病院 病理部 臨床研修プログラム

1. 目標

実地臨床における病理の役割を理解する。すなわち病理検査を行う側にたって研修を行うことにより、病理学的知識を深め、病理部を有効に利用するための知識を習得することを目標とする。

2. 診療および教育体制

病理部で病理専門医および細胞診指導医の資格を持つ指導医のもとで実際の組織診、細胞診、剖検症例を経験し、基本的な診断能力を身につける。さらに、病理診断に必要な特殊染色、免疫染色、電子顕微鏡、遺伝子学的解析について研修する。

3. 研修内容及び方法

①具体的な習得内容

- (1) 病理組織検査に関わる切り出し技術の習得および肉眼観察法
- (2) 主要な疾患の組織診および細胞診
- (3) 病理検査報告書の作成を行うことによってその読み方を理解する
- (4) 剖検検討会CPCに参加し、CPCレポートを作成する

②参加する活動内容

- (1) 病理組織診断、術中迅速診断、病理解剖、細胞診診断（以上の手技および診断は、いずれも指導医のもとで行う）
- (2) 各診療科とのカンファレンス、CPC、部内カンファレンス

③研修教育スケジュール

i 病理部研修が長期（4ヶ月以上）の場合

- (1) マクロ所見観察、切り出し、鏡検業務を指導医の監督下あるいは指導医と一緒に（毎日）
- (2) 術中迅速診断および細胞診業務に参加し、標本作成および染色技術等を習得する（毎日）
- (3) 部内カンファレンス：症例検討Case Study（週1回）、抄読会Journal Club（月1回）に参加する
- (4) 他診療科との生検・手術症例カンファレンス（月のべ4～5回）、剖検検討会CPC（月1回）に参加し、発表する
- (5) 病理解剖（月1～2回程度）に指導医の監督下で執刀に参加し、病理解剖報告書を作成する

ii 病理部研修が短期（1～3ヶ月）の場合

- (1) 検体の提出、固定、切り出しから標本作製の過程を一通り経験し、適切な固定法、肉眼所見、顕微鏡所見の読みを習得する
- (2) 主に志望科に関連した標本を担当し、基礎的な病理診断能力を身につける。また、その科とのカンファレンスを積極的に行うことで病態の理解を深める
- (3) 病理解剖（月1～2回程度）に指導医の監督下で執刀に参加する